



今日のトピック 中国経済は減速が続く（2019年10月）  
7-9月期のGDP成長率は6.0%

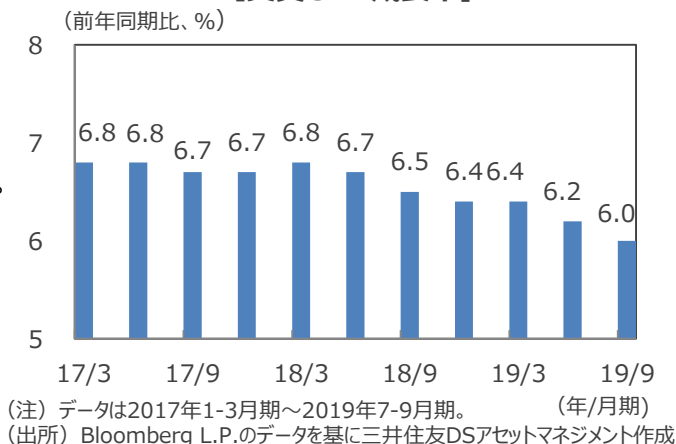
ポイント1 7-9月期GDPは6.0%成長  
過去最低を更新

- 中国国家統計局は18日、主要経済指標を発表しました。19年7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.0%と、前期からさらに0.2ポイント減速しました。市場予想を下回り、統計を遡れる1992年以降で最低となりました。米中貿易摩擦の影響で輸出が減速し、投資や消費など内需に波及したことから、景気が下振れました。

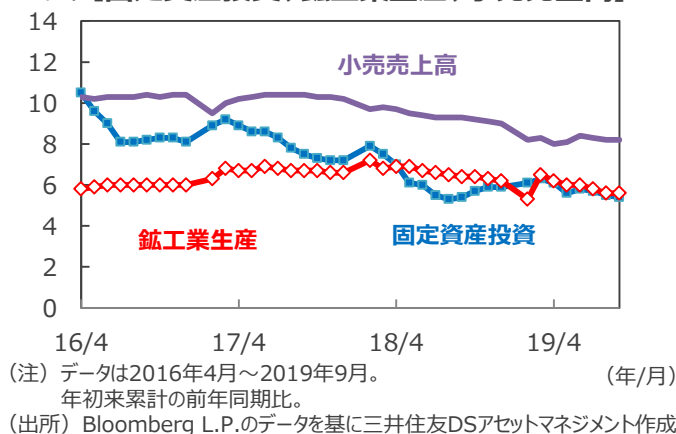
ポイント2 生産、投資、消費とも減速  
対1~6月比で伸び鈍化

- 19年1~9月の鉱工業生産は前年同期比+5.6%と、1~6月の同+6.0%から減速しました。販売が低迷する自動車の生産や米国による追加関税の影響から産業用ロボットなどの生産が振るいませんでした。
- 1~9月の固定資産投資は前年同期比+5.4%となり、1~6月の同+5.8%から伸び率が縮小しました。内訳をみると、約6割を占める民間投資が同+4.7%と、1~6月の同+5.7%から大きく鈍化しました。
- 1~9月の小売売上高も前年同期比+8.2%と、1~6月の同+8.4%から減速しました。自動車販売の不振が続いています。

【実質GDP成長率】



【固定資産投資、鉱工業生産、小売売上高】



今後の展開 米中協議の一段の進展を期待

- 中国政府は、19年の成長率目標「6.0~6.5%」の達成に向けて景気対策を継続し、景気失速を回避させるとみられます。ただし、財政バラマキ抑制方針の下で、インフラ投資の拡大ペースは控えめとする一方、最優遇貸出金利（LPR）の採用によって貸出金利を引き下げ、金融緩和への依存度を高める模様です。
- 米中両政府は閣僚級貿易協議で、中国が農産品の購入再開で譲歩する代わりに、米国が追加関税を見直す「部分合意」に達しました。更なる合意に向けた米中協議の一段の進展が期待されます。

ここも  
チェック!

2019年10月 3日 『国慶節』の海外旅行は日本が一番人気  
2019年 9月17日 減速続く中国経済（2019年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。